



# 米子市埋蔵文化財センターたより



第17号

2015年6月

## 史跡上淀廃寺跡の調査

- 刻書土器が出土！ -



上 「寺」刻書須恵器

左 SB133

史跡上淀廃寺跡では、平成26年度に米子市教育委員会により史跡整備に係る発掘調査が行われました。今回の調査は寺域西端のSB133 建物跡周辺及び中心伽藍西区区画施設の確認を目的としたもので、特にSB133については既往の調査成果ではその規模が確定されていなかったことから、北東方向に調査区を拡張し、梁間、桁行などの確認を行いました。

調査の結果、柱痕の残る柱穴4基が新たに確認され、このうち北東隅の柱穴には礎石が据えられていることが判明しました。調査区は上淀廃寺の立地する丘陵西端部に位置しており、西側～北側の地山面は下方に傾斜していることから、SB133の建物跡はこれ以西、以北には広がる可能性が低いこと、東側には柱穴が伸びていないことから、SB133については、3間×2間の建物跡であると考えられます。

今回の調査においても、瓦、須恵器などの多量の遺物が出土しており、現在、米子市埋蔵文化財センターにおいて、整理作業が進められております。このうち、特筆すべきは「寺」刻書の須恵器坏です。筆順は、横線3本→「土」の縦線→「寸」の縦線と点で刻まれています。既往の調査でも、SB133北西側の土器溜から、4点の「寺」刻書須恵器が出土しており、これらと筆順も同じであることがわかりました。これでSB133付近出土の「寺」刻書須恵器は5点となり、この遺構が寺院施設であることは間違いのないと思われます。このほか、西北側では溝状遺構を埋めるように多量の破砕礫と瓦、須恵器類が出土しました。このなかには太いU字状の沈線で鱗状文様が描かれた鴟尾の破片1点も出土しています。

このSB133は上淀廃寺西辺やや北寄りに位置していることから、西門に関連する施設の可能性も考えられます。上淀廃寺の謎はますます深まり、その魅力はつきません(濱野)。

## 発掘調査情報

### － 尾高城跡・山下の試掘調査 －

米子市教育委員会は、県道の拡幅工事に伴って、4月に尾高城跡・山下地区の試掘調査を実施しました。

今回の調査では、土塁を検出しました。昭和53年に隣接地において実施された発掘調査では、城の出入りに用いられたと考えられる通路と、その両側で土塁が検出されており、今回検出された土塁は、その北西側の土塁に続くものです。長さ1.3m、高さ0.9mを検出し、昭和53年に調査された土塁と併せると長さ10m程を確認したことになります。

基底部には長さ63cm、高さ27～36cmと長さ68cm以上、高さ39～48cmの2個の石が外側に面を揃えるように据え付けられていました。なお、当地では地表でも土塁の痕跡が低い高まりで認められます。(高橋)



土塁基底部の石列

## 整理室たより

### 東宗像 21 号墳の馬具の保存処理

平成 25 年度に調査を行った観音寺狼谷山遺跡の「東宗像 21 号墳」から出土した馬具を保存処理しました。保存処理は、専門の業者によって約 1 年かけて行われました。錆等がきれいにクリーニングされ、スリムになるとともに、馬具の構造がよくわかるようになりました。馬具は、秋に開催予定の米子市福市考古資料館特別展にて、展示する予定にしていますので、実物をぜひご覧ください。(平木)



保存処理前の馬具



保存処理後の馬具

米子市街地から東8kmの大山西山麓の大谷台地上の喜多原～泉原一帯に分布していた122基からなる古墳群です。

百塚原古墳群は、円墳105基、方墳3基、前方後円墳4基で構成され、古墳時代後期の築造と考えられ、日野川右岸域の代表的な後期群集墳です。残念ながら、開墾やほ場整備によって多くの古墳が消滅しており、「百塚」と呼ばれた、かつての古墳群の姿は現在見る事が出来ません。

また古墳群のあった丘陵一帯では、1991年から1997年にかけて県営ほ場整備工事に伴って発掘調査が行われ、弥生時代から古墳時代の多数の竪穴建物跡や掘立柱建物跡なども発見され、古代の集落も点在していたことが分かっています。(小原)



百塚 94 号墳石室

## コラム－奈良時代を掘る①

### えながめ 胞衣甕

## －西山ノ後遺跡－

諏訪西山ノ後遺跡は、米子市南部の長者原台地の東側で平野を望む標高45mの丘にある遺跡です。

1981年に、ほ場整備に伴って発掘調査されました。奈良時代の掘立柱建物跡SB03という遺構の脇から胞衣を埋めた甕が発見されました。

胞衣とは人の胎盤(たいばん)のことで、生まれた子供の無事な成長を祈って容器に胞衣や銭、筆などを入れて、家の入口や土間等に埋める風習で、奈良時代の貴族の間で盛んに行われました。

西山ノ後遺跡の南の丘の上の一帯は、長者原遺跡、坂長第6遺跡などの古代の会見郡の役所が置かれていた場所ですので、西山ノ後遺跡には身分の高い役人の屋敷があり、胞衣の埋納を行ったことを物語っています。



胞衣甕と和銅開珎

## センター・資料館日誌

- 4月14日 米子東高校が遠足で福市公園に来園したため、臨時開館した。
- 4月15日 古代出雲歴史博物館の松尾氏がミニチュア土器資料調査で来館された。
- 4月16日 県史編纂室の湯村氏が晩田遺跡の資料借用で来館された。
- 4月20日 出雲弥生森博物館の高橋氏がスス付土器の資料調査で来館された。
- 4月24日 米子南高校が遠足で福市公園に来園した。
- 4月23日 上淀白鳳の丘展示館の井上氏が淀江の考古資料調査で来館された。
- 4月26日 米子つつじまつりが開催され、ゲスト控室に研修室を提供した。
- 4月27日 五千石小学校児童がラリー遠足で来館された。
- 5月8日 出前講座「観音寺狼谷山遺跡について」を車尾公民館で行った。
- 5月14日 出前講座「古代体験学習・古代学習と火起こし体験」を車尾小学校で行った。
- 5月17日 尾高城跡ガイドウォークを開催。
- 6月3日 古代出雲博・中川氏が土笛の調査で来館された。
- 6月9日 尚徳小学校3年生が古代学習で、来館された。
- 6月16日 河崎小学校で古代体験出前講座・火起こし体験をした。
- 6月18日 尚徳小学校3年生が福市で古代体験学習で、火起こし体験をした。
- 6月21日 五千石小学校5年生の学年行事へ勾玉づくりの出前講座を行った。
- 6月28日 考古学講座第1回「古代人の暮らし」を開催した。

## 行事案内

### 考古学教室 第1回

#### 「土器を触って学ぶ」

遺跡から出土した各時代の土器を、実際に触って、その特色を観察してみませんか。



弥生式土器と土師器

日 時	平成27年8月23日(日) 午後1時30分～3時30分
集合場所	米子市埋蔵文化財センター
定 員	30名 資料代100円
申 込	電話かFAXで受け付けします。 0859-26-0455

## 編集後記

例年になく暑い5月が過ぎ、梅雨の季節の到来となりました。財団では受託の発掘調査事業の現場が無く、教育委員会への出向の職員が、各地で試掘や遺跡確認分布調査で活躍されており、その成果を掲載させていただきました。

発行日 平成27年 6月 30日

発行者 米子市埋蔵文化財センター

指定管理者 (一財) 米子市文化財団

電話 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp